

## 第 6 回 仙台市総合計画審議会起草委員会議事録

日 時 平成22年 8 月 3 日（火） 14：00～16：00  
会 場 仙台市役所 2 階 第 3 委員会室  
出席委員 江成敬次郎委員、大滝精一委員、小野田泰明委員、小松洋吉委員、西大立目祥子委員、庭野賀津子委員、間庭洋委員〔7名〕  
欠席委員 柳井雅也委員〔1名〕  
事務局 山内企画調整局長、大槻企画調整局次長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、遠藤総合計画課主幹、柳津総合計画課主幹  
議 事 1 開会  
2 議事  
(1) 基本構想（中間案）について  
(2) その他  
3 閉会  
配付資料 1 仙台市基本構想（中間案）

### 1 開会

大滝精一委員長

それでは、皆さんおそろいになりましたので、これから第 6 回起草委員会を始めたいと思います。

最初に、本日の議事録署名委員を指名したいと思います。間庭委員にお願いしたいと思いますが、間庭委員よろしいでしょうか。

間庭洋委員

はい。承知しました。

大滝精一委員長

それではどうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、議事に入る前に定足数等の確認を行います。事務局から報告をお願いします。

梅内総合計画課長

本日の出席者でございますが、現在、7 名の委員の方にご出席いただいております。定足数を満たしていることをご報告いたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。お座席に、座席表、次第、資料一覧、資料 1、A 3 折りの中間案の新旧対照表、そして参考ということで、今日ご欠席の柳井先生からいただきましたご意見、それといつも置かせていただいております、これまでお預かりしていました、資料、ファイルをそれぞれ置かせていただいております。過不足ございませんでしょうか。ご確認をお願いします。

## 2 議事

### (1) 基本構想（中間案）について

大滝精一委員長

委員の皆さん、よろしいでしょうか。

それではこれから議事に入ります。

まず、議事の第1の基本構想（中間案）についてです。

はじめに事務局から説明をお願いしたいと思います。

梅内総合計画課長

それでは説明させていただきます。

これまで、基本構想につきましては、前回起草委員会及び審議会の方で、パワーポイントを使いまして、骨子をお示していたところでございます。

本日は27日に行われます、審議会で中間案としてお出しするための、肉付けをいたしました文章をご審議いただくことになります。

資料1及びA3で用意しました中間案の新旧対照表をお手元をお願いいたします。

前回までの骨子との変更点も含めながらご説明しようと思っておりますので、新旧対照表を使ってご説明をさせていただきます。

最初に、「仙台の未来へ」ということで、この部分は前回と基本的には同じでございます。前回、誇るべき仙台の資産ということで、書いておりました項目につきまして、「（1）未来に生かす仙台の資産」ということで、杜の都、自然と調和する都市、地域や市民の活動、学都、政令指定都市としての都市機能、交流と賑わいというようなことを記載してございます。前回、骨子の方で多く書いておりました、各種の市民活動につきましては若干触れておりますが、2の「市民力」のところに厚く記載しておりますので、その部分は重複を避けるために譲っております。

次に「（2）仙台を取り巻く時代環境を越えて」でございます。前回の骨子でも時代環境ということで、人口減少、環境等の世界的な環境課題、財政制約、地震等の災害というようなことを記載しました。今回も、環境の問題、人口減少、それに加えて進む少子高齢化、地震等の自然災害の高まり等の厳しさを掲げております。財政制約につきましてはここでは明記をせずに、後ほど4の「都市経営」というところに、内容に移してございます。それらの危機に加えて、仙台の東北における重要な役割、そのことをしっかり責任を持って果たしていかなければいけない、そのために杜の都の先進性、市民力等と共に未来へ希望をつないでいくというような内容を記載してございます。

前回の骨子では、この後に都市像を記載しておりましたが、前回の審議会でもやはり今回の特色である市民力を2番に上げるべきだというご意見をいただきましたので、今回2に「仙台の未来を創る市民力」を掲げてございます。個人や企業、地域団体、市民活動団体等、多様な力が都市の魅力と活力を創り出していく。これからも市民力を共にはぐくみ、協働のまちづくりを推進したいということでございます。

「（1）支え合う市民力」。これまで、仙台の市民力が果たしてきた大きな役割、環

境の問題でありますとか、町内会等に熱心な活動、防災や防犯、介護や子育てといったこれからの時代にも、こういった市民力が大きな役割を果たすことが期待されるというふうに記載してございます。

「（２）賑わいと魅力を生む市民力」でございます。ジャズフェスや仙台七夕、光のページェントなど、仙台では市民が企画・運営するイベントが、全国に名を知られる著名なイベントに成長しております。プロスポーツなどでも熱心な市民ボランティア活動が見られますし、このような多様な市民の力がシティセールス、都市イメージの向上ということに大きな力を得ています。

次に「（３）広がる新しい市民力」でございます。これまで記載しましたいろいろな市民力のほかに、最近では学都の資産である学生さんの力も、いろいろなところで活躍を見せております。各種のイベント、福祉でのボランティア活動、又は地域での活動などにも入り込んで様々に取り組んでいる事例が見えています。加えまして、企業市民と言われるように企業の社会貢献活動も広がっています。企業のお陰で支えられている市民イベントも多くございますし、また企業といいますか従業員の方のボランティア参加、また、退職後にそのノウハウを持って地域とのつながり深め、活躍されているシニア層も増えている。これから高齢化社会を迎えて、ますますこういったシニア層の力が重要になってくるものと考えております。これからのまちづくりにはこのような、市民力との協働を進めることが必要だと考えております。

これを受けまして３番に「都市像」を掲げました。統合目標として、前回は「ひとが輝き 暮らし続けたい 杜の都」というのを掲げておりましたが、今回更に削ってといいますか、磨いたつもりでございますが、「ひとが輝き続ける杜の都」というものを統合目標に掲げました。ひと、輝く、杜、都、というのが、仙台のいろいろな都市機能をうまく表しているものと考えておりますし、これが続けるという言葉で、今後持続的に発展といいますか、生活の質の向上等を含む発展につながるようになりたいということで、統合目標としてこの言葉を掲げてございます。

都市像の「（１）『未来を育み創造する学びの都』」でございます。「学び」は人を成長させるもの、人が個性を発揮しながら充実して暮らしていくために欠くことができません。誰もが学び合い、創造的に活動することで、暮らしや社会に充実感が生まれます。地域に多彩な学びの場があり、学びを通じて都市のさまざまな魅力を創り出してまいりたいと考えております。その下に三つ、「まち全体を学びの場として、仙台の歴史や伝統、地域資源を大切にしながら、一人一人の創意工夫と実践により多彩な文化活動を生み出すとともに、誰もが芸術とスポーツを楽しむことができるまち」、「若者の力を生かして賑わいと活力を創り出し、新たな人材や情報の多様な交流により、新たな価値を創造するなど、学都の成果を市民や地域全体で享受できるまち」、「家庭と地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちが夢と希望を持って生きる力を育むことができるまち」の三つを掲げております。前回、この分野には子育て等を入れておりましたが、子育ての部分につきましては、（２）の「共生の都」の方で拾うことにいたしまして、この中には今回は外すことにいたしました。

「（２）『支え合う健やかな共生の都』」でございます。都市には多様な個性と価値

観を持つ多くの市民の方が暮らしていられっやいます。その中で、誰もが自分らしく暮らしていくためには、互いを認め合い、支え合いながら地域の中で共に暮らしていけるような、そういったまちでありたいと考えております。その下で、四つ掲げております。

「年齢や性別、障害の有無などに関わらず、生涯を通じて健やかに、自立して生きがいを持ち続けることができるまち」、「地域の信頼を高め、子育てや介護など、共に支え合うまち」、「多様なまちづくりの主体が、互いに知恵を出し合い、連携することで地域が活性化し、豊かに暮らすことができるまち」、「地域の共助機能を高めて、災害による被害を軽減し、犯罪を防ぎ、地域の中で安全に安心して暮らすことができるまち」。

「(3)『自然と調和し持続可能な潤いの都』」でございます。前回骨子案の、環境分野に加えまして、機能集約型の都市構造づくりというの、環境といいますか、杜の都づくりの重要な要素と考えて、これを(3)の内容に取り込んでおります。将来にわたり持続的に発展することができるよう都市の骨格を整え、機能集約型の都市構造をつくるのが課題でございます。地球環境を保全し、杜の都の良好な都市環境を未来につないでいきたいと考えております。このもと、三つの項目を掲げてございます。「環境負荷の小さい低炭素・資源循環型の都市づくりを進め、地球環境の保全への取り組みを事業活動や日常生活のさまざまな実践で支えるまち」、「水と緑のネットワークを形成し、多様な生態系を保全するなど、豊かな自然と調和した本市のライフスタイルを未来につなぎ、誰もが杜の都にふさわしい自然環境と景観に触れることができるまち」、「公共交通を中心とした利便性の高い交通体系に支えられたエネルギー効率の高い機能集約型の都市構造の構築を進め、便利で快適に暮らし、活動できるまち」でございます。

最後に四つ目の都市像でございます。「東北を支え広く交流する活力の都」でございます。仙台が東北の発展を支え先導する役割をしっかりと自覚し、東北の地域資源を連携させ発信させることで、東北全体の底上げを図っていくことが大切だと考えております。また、そのことが中枢都市である仙台的持続的な発展にも不可欠だと考えておまして、さまざまな交流により、新たな成長産業を生み出し、仙台の活力を高めたいと考えております。四つ掲げております。「アジア諸国をはじめとする世界の経済や人材の交流により、新たな成長に結びつく価値を創造するまち」、「仙台の経済や雇用を支える中小企業が、さまざまな連携や技術革新により、持続的に活力を発揮できるまち」、「市民主導の文化イベントやプロスポーツによる賑わいの創出など、地域の新しい魅力を創り上げ活力を生むまち」、「広域交通ネットワークや物流拠点機能など、内外との交流の拠点となる都市機能の充実を図り、東北全体の活力を支える役割を果たすまち」でございます。

最後に4でございますが、前回の骨子案では「推進に向けて」ということで、総合計画全体の推進にあたっての基本的な考え方を示すこととしておりましたが、担い手・推進力としての市民力でありまうとか、そういったものを整理が必要だと考えておりましたので、そこにつきまして市役所の中でさまざまな協議を重ねて、4を「仙台の確かな都市経営」というくりにいたしております。

「（１）自立的・創造的な都市経営に向けて」でございます。先程財政制約等をこちらの方に移したと申し上げましたけれども、地方分権が進む中で地域課題について地域自身が考え、対応していくことが強く求められています。高齢化や人口減少ということで、先程の財政制約も含めまして、行政運営においても担い手の多様化や選択と集中など、新しい課題に取り組んでいくことが必要になってまいります。福祉サービスや公共施設の整備運営に、新たな実施主体が参入してきており、また地域における共助の取組の拡大など、公共的なサービスの担い手が多様化し、拡大しております。市民力による公共サービス分野の参加が広がれば、雇用の創出、市民生活の向上といった好循環も期待できるものと考えております。このような公共的な分野の担い手の広がりや、市民の関心の高まりなどに伴いまして、情報公開を進め、行政側の説明責任を果たすことを基本に、行政運営に協働の仕組みを取り入れていくことが、一層重要になってまいります。このため市役所の自己改革を進め、自立的・創造的な都市経営に向けて、さまざまな取組を行ってまいりたいと考えております。

「（２）総合計画の推進」でございます。この構想に掲げました都市像の実現に向けまして、現在部会の方でもご検討いただいております「基本計画」、また３年を目途に中期的な計画目標を掲げる「実施計画」を定めまして、これらを「仙台市総合計画」と位置づけます。基本計画・実施計画の進ちょく状況につきまして、分かりやすい目標を掲げ、適切な評価の仕組みにより、実効性を確保してまいりたいと考えております。

以上が、今回用意いたしました基本構想の中間案でございます。

市役所の中でもいろいろな議論がありまして、前回の基本構想に比べましてもボリューム的にもかなりシンプルにしたつもりでございます。総論と各論といいますか、基本計画と同時議決というようなことも踏まえまして、かなりシンプルな内容にしたところでございます。そこについてもご意見があらうかと思っておりますので、ご議論をお願いしたいと思っております。

資料１の説明は以上でございますが、本日ご欠席の柳井委員の方からあらかじめご意見をいただいておりますので、ご紹介させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

大滝精一委員長

はい。結構です。

梅内総合計画課長

それでは、「参考」と右肩に書きました資料を御覧ください。

柳井委員から、あらかじめ本日ご欠席と伺っておりましたので、事前にご意見をいただけるようにお話をしまして、内容をご確認いただいたものでございます。柳井委員といたしましては、専ら産業のところでは何点か意見を言いたいということでございましたので、このような形でまとめております。

都市像のところはメインでございますけれども、都市像の１のところは、学都としての魅力として産業との関係をもう少し書くべきだ、都市型産業や知的クラスターといっ

た観点のつながりをここに入れるべきではないかというご意見がありました。

また、4の交流都市のところでございますが、人材の交流だけではなく仙台がもっている価値資源を生かすというような、世界に向かって積極的に仙台の資産をつなげていくような表現が必要ではないかというご意見でございます。

また、経済交流や世界からやってくる人材の活用、交流というが、これもより広い表現が必要だ、というご意見でございました。

またのところでは、中小企業というふうに仙台の産業の中枢を担っております中小企業ということで、単語を使いましたけれども、これは中小企業に限らないので、「産業」とか「企業」といった表現がいいのではないかと、新産業育成というようなこともここで読み込んだらいいのではないかとご意見をいただいております。

その他、全体といたしまして、人口が減少に転じるこの10年が、産業育成からは非常に大事な時期なので、マーケットが縮小する前に新産業の育成等に熱心に取り組むべきだ、また、農商工連携のような農業に対する目配りを入れるべきではないかというご意見をいただいております。

以上でございます。

大滝精一委員長

どうもありがとうございました。

資料1に基づきまして、基本構想の中間案につきましてご説明をいただき、引き続いて、今日ご欠席の柳井委員の方からのご意見のご紹介をしていただきました。

それでは、今の紹介していただいた柳井委員のご意見も踏まえて、これから意見交換をしていきたいと思っております。皆様から今ご説明のありました資料1につきまして、ご意見あれば、ご質問等をいただきたいと思います。3ページくらいで、そんなに分量があるものでもありませんので、どこからでも結構だと思いますし、お気づきの点、あるいはご質問等ありましたら、是非お話いただければと思います。

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

小松洋吉委員

基本的には今までの議論を踏まえて、大変分かりやすくまとめられているんだろうと思います。よって全体的には私は異議はありません。

ちょっとこれは今後の課題かもしれませんけれども、今回一つは自分たちの生活、あるいは将来のそういう課題について考え、行動していこうという市民力というのがありますが、その市民力をだれがどのように育てるのかということになりますと、どちらかと言えば、都市経営、あるいはその以外のことになるのかもしれません。私は行政も当然育てる役割の一端を担うんでしょうけれども、やっぱり市民社会が育てるんだろうと思うんです。市民社会が市民力を育てる、その一つの仕組みみたいなことが、これはここに市民力を随分うたっていますので、一つ大事なのではないかなと思います。

とりあえずそれだけです。

大滝精一委員長

ありがとうございました。

今の小松先生からいただいたお話は、起草委員会の中でも何度か出てきた話で、主に今ご指摘のあったように、この2の「仙台の未来を創る市民力」というところ、それから一番最後に出てきます「都市経営」の中にもそういうお話、特に協働の仕組みを取り入れるとかというようなところにもかかわりを持っているかと思います。ですので、特にその市民力を育てていくというような視点、あるいはその主体が誰なのかとか、どういう形でというような議論は、少しあってもいいかなという感じがちょっとしているんです。特に21世紀半ばを展望するという形になっているので、少し息の長い視点からみて、市民力をどうやってつくっていくのかというような話は、特にこの2の「仙台の未来を創る市民力」のところで、もう少し何か書き込めることもあるのかもしれないという感じが少しあるんですけれども。これ具体的にどう書くかということについては、これからほかの委員の皆さん方からもご意見いただければとも思いますけれども、今、冒頭で小松先生から口火を切っていただいた、市民力を誰がどのように育てるかというこの視点は全体としてはかなり重要じゃないかと思います。

どうぞ、ほかの皆さんからも少しご意見を出していただいた上で、具体的に詰められるところは詰めていきたいと思っています。

どうぞ、間庭委員お願いします。

間庭洋委員

具体的な加筆、修正ではなくて、感想的なことになるんですが、この横長の表の2ページの「仙台の都市像」には、例えば(1)の に、子供たちのことが位置づけられているんですが、私は前にもちょっと触れたことがあるんですが、子供たち、重複するといけないのですが、市民力の中に子供たちというのを手段としてではなくて、今既に担い手として存在しているということをしっかり位置づけをしていただけないかなと思います。例えば介護だとか、子育てという対象だけじゃなくて、いきいきとしたシニアの方も都市像には位置づけられていますけれども、子供たちというのを担い手として位置づける。確かにお年寄りにはお年寄りなりのハンディキャップがあるのかもしれません。だけど、子供たちもそうかもしれないけれども、やっぱり将来の市民としてだけではない、今大事な構成する市民として位置づけをして、どんどん育てていただきたいけれども、今あるがままでも市民力の担い手の一員だという位置づけがあっていいんじゃないかということは感じました。位置づけですね。

それから、3ページの4の都市経営のところなんですが、「(1) 自立的・創造的な都市経営に向けて」の表題の1行目のところなどは、文章としてこうになってしまうのかもしれませんが、結びがちょっと認識を示しているというか、やや分析・トレンドに留まっている感じがするんです。例えば、「地方分権が進む中、地域課題について地域自身が考え、対応していくことがより強く求められます。」というのは、これは仙台市の計画ですので、認識や分析ではなくてやっぱり主体的な姿勢をもっと示した表現にしていくべきではないか。例えばですけど、そういったのがこういった中に少し透け

て見えるような感じがして、私どももこういうものをつくると、すぐそういう表現にしまいがちなんですけれども、せっかく仙台市のこれから数10年という意気込みを示すもの、計画の基本ですので、ここは求められるという表現じゃなくて、もっと仙台市としてはこうしていきたいという姿勢を示す表現に少し変えていただければと思います。その(1)の最後は、逆に「さまざまな取り組みを加速します。」というようにしっかり書いてあるんです。だから、ここは最初のところは認識というよりは、やっぱり姿勢を示した方がこの基本計画としては、仙台市民の意志を表すという意味では必要なことという感想を持ちました。

以上です。

大滝精一委員長

ありがとうございました。

今、間庭委員から二つご指摘があったと思います。

一つは、子供たちを市民力の担い手として位置づけていく、あるいは子供たちが市民力の担い手として存在しているということを、もう少しはっきりと書き込んだ方がいいのではないかというご指摘だと思います。これはもし、何かそういうことを書き込むと明示するとすれば、どの辺りのところにそれを入れるとよろしいんでしょうか。

間庭洋委員

2の(1)かなと。

大滝精一委員長

2の(1)くらい。2の「支え合う市民力」というところ。  
なるほど。

間庭洋委員

子供も、その一員であるという、もちろんそうでない人もそうですけど。ここに入れるべきかなと思うんですが、これはお任せします。

大滝精一委員長

ただ、子供の持っている力とか、将来市民として育てていく、そういうことをやっていくプロセス自体をもう市民力として位置づけていくというか、あるいはさっきの小松委員のお話ともかわりを持っているかもしれませんが、その過程の中でも市民力を、きちんと責任を持って育てていくとかというようなことを、もうちょっとこの中に明示的に入れた方がいいんじゃないかということだと思いますね。

間庭洋委員

私は前にロサンゼルス市長さんの公演を聞いたときに、一番の環境の担い手、リーダーはもう子供たちだという話を伺いました。子供たちは家庭で地域で暮らしている中



で、パパそんなに水流しっぱなしで歯を磨くのはもったいないよとか、特にロサンゼルスは水がもったいないからそうなんですけれども、例えば、そういういろんなことに非常に敏感であるということで、既にもうリーダーだという位置づけの話を伺ったことがあるんです。一例ですけれども。まさにそうだと思いますので、是非次代を担う、今は白地だけだという位置づけではない位置づけにしていなければという思いがします。

大滝精一委員長

ありがとうございました。

それから二つ目の、特に最後の4の(1)のところについては、もう少し分析的とかトレンドの記述のようなものではなくて、市としての明確な意志のようなものを、はっきり示した方がいいのではないかというご指摘だったと思います。これは私も読んでみて、そういう感じをちょっと持ちます。例えば、最後の2行のところは「取り組みを加速します」という書き方をしているんですけれども、その上のところでは「協働の仕組みを取り入れていくことが一層重要になってきます」というような書き方をしているんです。それは事実だと思いますけれども、恐らく書き方として行政運営に協働の仕組みを積極的に取り組んでこの流れを加速しますみたいな話を、やっぱり書いていただいた方がいいと思いますし、ここまでちょっと突っ込んで言うことがいいかどうかは分かりませんが、そういう協働の仕組みを積極的に取り込むことによって、行政運営のやり方とか、ものの決め方の仕組みを変えていきますとかというような表現とか、それからそのプロセスの中に市民が入ってくることによって、実は市民力も育っていきそうですみたいな書き方など、もうちょっとそここのところを踏み込んだ表現の仕方とか、具体的に市として何をやるのかという方向性とか意志のようなものももうちょっと出してもらった方がいいと思いますし、既にこの起草委員会の中でもそういう議論がたくさんあったのではないかと思いますので。今私が言ったようなことはここに全部書いてくださいという意味ではないですけれども。私も読んだ印象としては、間庭委員とよく似たような印象をもって。せっかく一番大事なところにきてトレンドがこうなっていますみたいな話だけではなくて、もうちょっと踏み込んだ仙台市としての意志のようなものを表現してほしいという思いをかなり強く感じました。

逆にむしろ後ろの2行「市役所の自己改革を進めながら、自立的・創造的な都市経営に向けて、さまざまな取り組みを加速します」という言い方は、かえってその様々な取組って何ですかというのが分かりにくくなってしまって、何を具体的にやることによって自己改革を進めようとしていますかということの中身が、かえって分かりにくくなっているのではないかと思います。少しこの辺りのところは、もうちょっと内容、それから書き方について工夫があってもいいのかなと思いますし、もう少し踏み込んだ表現をしていただければいいかなというような印象を、間庭委員と同じようなかたちで私も持ちました。

あのどうぞ、ここはかなり大事なところなので。

恐らく先程から何度も皆さんから議論があるように、この2の「仙台の未来を創る市民力」という話と、4の「確かな都市経営」というところは、かなり結びついている話

がたくさんあるので。といっても都市経営を担っていく担い手の一つとして市役所が存在しているということは、これは事実なのでそういうことは決して無視することはできないと思いますけれども、それにしてもやっぱり、都市経営のかなり大事な担い手とか原動力として市民力というのを位置づけて、市役所と一緒にそれを進めていくというのがスタンスだと思いますから、この2と4との関係とか、それからその中にどういう中身を取り込んでいったらいいかというようなことについては、もう少し皆さん方からいろいろご意見いただけるといいかなと思います。

どうぞ、庭野委員お願いします。

庭野賀津子委員

今の4番のところなんですけれども、(1)のタイトルの「自立的・創造的な都市経営」、あるいは(1)の最後の2行目の出でくるわけなんですけれども、ここでの自立が、何が何から自立するということを言いたいのか、この文章からはいまひとつ明確に出てこないで、この自立という言葉をもってきた理由、そしてここで意味することの内容をご説明いただければと思っております。

後もう一点ですけれども、2番の「(1)支え合う市民力」のところに、脱スパイクタイヤの運動の具体例が出てきて、これはこれで結構アピールできる部分だと思うんですが、この脱スパイクタイヤ運動という具体例をあげているところがここだけなんですけれども、あえてここで具体例を出す必要があるのかどうかということを、ご検討いただければと思います。

以上です。

大滝精一委員長

では、事務局の方からご説明いただきます。

梅内総合計画課長

ただ今のご質問にお答えします。

自立的、4の(1)で自立的と記載しましたのは、いろんな意味を入れていたつもりでございますが、一つは地方分権が進んでいるということがございまして、今までのような国と地方の関係が変わってきておりますし、また高齢化社会の進展等に伴いまして、より一層市民力と共にということなんですけれども、都市経営の部分が非常に低成長といたしますか、その中で行政の運営自体も先程言いました、財政制約の強まり等がございしますので、そういった二つの大きな方向からいっても都市経営を自立させていくために、市役所としても自己改革を進めなければいけませんし、先程来ありますような、市民力との協働、市民力の育成、そういったことが重要になってくることを意識しまして自立的という用語を使っております。

二つ目の、脱スパイクタイヤなんですけど、これとかですね(2)のイベントのところも同様だったんですが、当初の案ではいろいろな事例を入れておったんですけれども、21世紀半ばを展望する基本構想ということ意識して、できるだけその具体的な例を落

として、シンプルなつくりにすることに努めました。その結果、スパイクタイヤだけが残ってしまったので、今庭野委員からご指摘があったようにちょっとバランスが悪いのかもしれないのですが、健康都市でいろいろな取組をしてきて、一つの大きな成果であったということから、この部分だけを具体例として出したわけですが、バランス上ということから考えると、確かにここだけ一つ具体例が入っていますので、そのことについてはご意見があるかなと思っています。

大滝精一委員長

ありがとうございました。

庭野委員いかがですか。

庭野賀津子委員

まず自立については、仙台は大きな都市ですので、いろんな制約とか国との関係とはあると思うんですけども、ある程度政令指定都市として自立している都市だと私はイメージしておりましたので、ここであえて自立に向けてとなると、余り自立していないのかなという。言葉のニュアンスの問題ですけども。具体的なところをあげれば、いろいろ行政運営上の問題はまだまだあると思いますけれども、この言葉は仙台の今の規模を考えて、あえて使わなくてもいいのかなとちょっと思いました。ニュアンス的には内容として盛り込んでいって、もっと自立に向けてというところはいろいろ出てくると思うんですけども、タイトルとしてあげるといかにも、まだ自立が十分じゃないというイメージの方が強まってしまうので、その言葉をもし変えられるのであれば、変えてもいいのかなと思います。

脱スパイクタイヤのところは、これからまたご検討いただきたいと思いますけれども、基本構想ですので、さっきもおっしゃったようにできるだけシンプルの方がいいので、ここだけ具体例がなるのはちょっと違和感がありますので、入れるのであればもっと別なところで後から入れられるのかなと、基本構想ではないところで入れられるのかなと思っています。以上です。

大滝精一委員長

ありがとうございました。

どうぞ、江成委員お願いします。

江成敬次郎委員

最初にお話が出ました、市民力の育成ということにつきまして、私もやはりそういう印象を感じます。特に市民力というのは、市民の側からも行政の側からも、これから必要性が高まってくるという認識は一致しているんでしょうけれども、現実それを担える状態になっているかどうかということになると、必ずしも十分でないという認識も、多分一致できるんだろうと思います。ですから、こういう形で基本構想の中に入れて伸ばしていこうということだろうと思いますが、やっぱりそこに具体的な育成をどういう

ふうにするのかということ、まずそれも重要なやはり課題だと思うんです。支え合う市民力とか、いろんな市民力を活用するということと合わせて、そういう市民力をどう育成していくのかということ、やっぱり検討する必要があるのかなという気がしています。

それと、育成ということ、少し幅広く考えて、先程子供の力という話もありましたし、以前ここで出たことだろうと思うんですけれども、あんまりこういう表現がいいのかどうかちょっと私は分からないんですけれども、いわゆる弱者とか、ハンディキャップをもっておられる方から見ると、こういうものがものすごく遠くて自分ではできないんじゃないかという、そういう印象がもし出てくるとすると、やっぱりそれはマイナスになってしまう。そういう人に対してもやっぱり育成するという、そういう市民力が身につくような育成の仕方というのをやっていって、初めて仙台市民の育成力全体が高まっていくという視点はやはり重要ではないかという気がしました。ですので、何かやっぱりこのところに書き込めるといいという気がいたしました。

以上です。

大滝精一委員長

ありがとうございます。

今江成先生からご指摘があったんですけれども、この2の「仙台の未来を創る市民力」のところにも、例えば、2行目のところで「仙台の未来を創るこれからのまちづくりに向けて、仙台の市民力を共に育み、協働のまちづくりを推進します。」という文章が出でくるんです。ただ、もうちょっとこのところを膨らませるような工夫をすれば、基本的にやっぱり仙台のまちづくりというのと、市民力をはぐくんでいくという、車の両輪になっているというか、まちづくりをするためにはやっぱり市民力を育てるということをやらなくちゃいけないという、そういうお互いがインタラクションして豊かになっていくという性格のものじゃないかと思うんですよ。そういうことをもうちょっと書き込んでいくか、項目の中に入れていくことが必要だと思うんです。

今、江成先生からご指摘があったように、(1)、(2)、(3)ってどちらかというと市民力の担い手とか、市民力のジャンルみたいなもの書いているんです。それがすごく市民力といっても幅広いし、いろんな分野に市民力が広がっていますという意味では、説明としていいと思うんですけど、ではその市民力をどうするんですかとか、どうやってそのまちづくりにかかわってくるんですかとか、市民力が育つということが仙台のまちにとってどういう意味を持っているんですかみたいな話を、何かもう一つくらい書いてもいいのかなという感じもあるんです。ですから、まったく触れていないわけではなくて、いろんなところにそういう文言は実は出てくるんですけど、ただ読む側の人たちが、そういうふうにならなければいけないのかどうかという問題もあるかと思うんです。その辺のところについても、もうちょっとご意見をいただいたり、検討を加えていく必要があるかなとも、今江成先生のご意見を伺ってちょっと感じた次第です。

西大立目先生どうですか。

西大立目祥子委員

資料を郵送されてそれで読んでいたんですけども、起草ってなんて大変なことなんだろうと思いながら拝見していました。

いつかの会議で、私たちの仙台はこういうふうにやっていくんだとか、こうしたいんだという、そういう表現にしましょうというようなことが出されていたと思うんですけども、それがちょっと薄い気がします。

この基本構想が、行政側から市民に対してのある一つのプレゼンテーションとか、21世紀中葉までにこんなまちにしますということを考えると、もう少し意思を示し、かつイメージを喚起して、しかも細部が整っているというようなものになっていかなきゃいけないんじゃないのかなと思うんですけども、市民と共有してこの基本構想を共につくるといふ辺りの、立ち位置というのが少し希薄なような気がしました。

大きなところではそんなところなんです。

細かいところだといろいろあるんですけども、一つは「未来に生かす仙台の資産」という頭のところでは、私がやっている活動ともかかわることなんですけれども、1か所くらい資産じゃなくて、遺産という言葉を使いたいというのがあります。城下町400年の歴史・伝統・文化遺産みたいなのを基盤に、まちができてきてその資源を活用して発展してきたとか、発展していくんだというような、そういうニュアンスを込めたいように思います。

それと2番目の「仙台を取り巻く時代環境を越えて」のところは、もう少し文言が整理できるのではないかなと思いました。地球規模の温暖化とか、これと並列で人口減少が出てきたり、災害のことが出てきたりしているので、これはセンテンスを切ってもうちょっときちんと整理できるのではないかなと思います。

それと問題になっている市民力のところは、確かに(1)、(2)、(3)はある活動のジャンルというかタイプ別の記載だけに留まっているという気がしました。その市民力をどんなふうにとらえるか、もう少し多面的なとらえ方があっていいのではないかなと思っていて、私が感じるのは、地縁型のコミュニティが相対的に弱まっていく中で、課題ごとというかテーマで集まるその市民の活動というのが、テーマコミュニティというか新たなコミュニティになっていくというのをすごく強く感じるんですね、そうなるこの地域団体とか、市民活動団体というのが、並列でこんなふうに大きな成果を生み始めているという記載よりは、もうちょっとリアルに地域団体の活動が、恐らく人口減少の中で弱まっていく中で、新たな市民活動の芽が育って大きな成果を少しずつ出し始めているというような、もう少し違った評価の仕方がここに入ってきて、その(1)(2)(3)の整理が、育成であるとかそういうところまで踏み込んだものになっていくと良いのではないかなと思います。

それとちょっと長くなりますが、2ページ目の下のところですけども、「自然と調和し持続可能な潤いの都」のところでは「水と緑のネットワーク」と出てきていて、とても抽象的。あんまりシンプルで、具体に入っていないとなると、この程度でもいいのかもしれないのですが、もうちょっと農地であるとか、そういう農業に対する視線みたいなものが、ここに入ってきていいのではないかなと思いました。同じように(4)

の「東北」のところも、都市機能としての仙台の機能を高めて、東北を支えるということ以外にも、東北というと第一次産業が主なる産業なわけですから。しかも、前の総合計画の時代と大きく異なるのは、この10年での農業に対する評価というか、農業の可能性というか、それをとっても180度ぐらい変わってきていると思うんです。その中では東北の農林漁業、農的な可能性、生活の可能性みたいなものを含めた記載があっているのではないかと思います。

それから、4番目の都市経営のところでは、先程から出ていますけれども、行政運営に協働の仕組みを取り入れるというのは、今だって取り入れているといえ、取り入れているのでないかと思って、これからのまちづくりをどうしていくかということになると、もっと踏み込めないかなと、それは役所側の判断もあるのでしょうかけれども。例えば、政策決定に市民がかかわれるのかかかわれないのか、そのために行政側も市民もどのように変わっていかなければならないのか、課題は何なのか、そのぐらいのところまで書き込んでもいいのではないかという気がしています。

大滝精一委員長

ありがとうございました。

かなりたくさんいろんな分野について、ご指摘をいただいて、少し文言を入れたり、書き方を整理するとかという、そういうようなところで、対応できる分野の問題もありましたし、それから特に先程から何度も議論があります、市民力のところについては、もう少し市民力と言っている、その市民力そのものの在り方とか、源泉とか、変化とかという、そういうようなことも含めた上で育成につなげていくというような書きぶりをもう少し目指していった方がいいのではないかというご提案があったかと思います。

それから、今までなかった議論の中で特に、2ページの(3)の環境との問題の中での、農地とか農業の問題とか、それと同じく、主に多分地域資源とか産業という面にかかわっている3ページの(4)の「交流する活力の都」という都という部分についても、もう少し一次産業とか、農業を中心とした東北、あるいは仙台の持っている意味とか可能性なども含めて、利用するということも必要ではなかったか、そういうご指摘があったかと思います。

それから最後については、今お話があったとおりですので、特に協働の仕組みの問題とか、行政運営の仕組みとかという問題についても、もう少し政策決定とかというレベルのところまで、内に踏み込んだ書き方をした方がよろしいのではないかということだったかと思います。

山内企画調整局長

よろしいですか。

大滝精一委員長

どうぞお願いします。

#### 山内企画調整局長

ちょっと広範なご意見をいただいたものですから、今後の進め方の関連もございますので、若干事務局からコメントさせていただきたい点といたしましては、基本構想と基本計画合わせて中間案として8月中に審議会の方でご議論いただいて、その中間案について、議会そして市民の方にもいろいろご意見をいただくという一つのスケジュール設定がございまして、その基本構想については、今日いろいろご議論いただいたものを、後は委員長を中心に個別に、どこまで反映できるかということの調整をさせていただいて、後は審議会の方にあげていきたいと考えておりまして、その西大立目委員の前までのご意見につきましては、おおむねそういった趣旨をいろいろ、同じ方向性でございしますので、反映できるのかなと思って受け止めさせていただきました。

今のご意見の中で、冒頭の歴史・文化遺産という話ですとか、東北の農林漁業のような話とか、そういった点については十分反映できると思うんですけども、冒頭の立ち位置の関係、これは従来から何度となくいろいろなご議論をいただいて、庁内的にもいろんな議論を経た中で、結果として基本計画との役割分担という位置づけのもとに、この最初の「仙台の未来へ」のところは導入部ではないかという認識で、簡潔、明快にまとめたいということで、現段階ではこういう文脈でまとめてみたところでございます。その間、「私たちは」とかいろんな形での文章づくりもいろいろ調整はしたんですけども、ここは導入という位置づけで、それほど深くいろいろ文章を長めにして踏み込む必要がないんじゃないかということで、この程度の分量という形にしております。

次の市民力の中での、地域コミュニティからテーマコミュニティというトレンドの話もございましたけれども、その従来そういったトレンドの認識もありましたが、やはり少子高齢化の状況、人口減少の状況がいろいろ地域によって異なりが出てきていると、そういった中で、特に人口減少が進むような地域においては、やはり地域自らが地域コミュニティを再活性化していくべきだという動きも、随分あちこちで根付いてきているというふうに、私も区長を経験し実感をしておりまして、やはり地域コミュニティからテーマコミュニティというよりは、いろいろなコミュニティが同時並行で更に市民力を担っていくということでは重要だということでの流れとして、こういうまとめにしているというところございまして、その辺が若干、認識としてはちょっと違う部分があって、その辺はご理解いただければと思います。

後は都市経営の部分で、どこまで踏み込んで書くか、これについてはやはり基本計画との兼ね合いでどう書くかということだと思いますので、その辺は基本計画の中間案と合わせて御覧いただきながら、どの程度こちらで盛り込むかということをご議論いただければと思います。

#### 大滝精一委員長

西大立目委員いかがですか、もし何か。

#### 西大立目祥子委員

地域によって、いろいろな課題がやっぱり地域差が大きくなってきているとか、そう

いうことは書かないのでしょうか。

小松洋吉委員

別に計画はあるんでしょうね。

西大立目祥子委員

それは、更に地域計画の方で。

梅内総合計画課長

地域課題の「まだら化」というふうに市長がよくいろんなところでお話をしておりまして、人口の粗密であるとか、高齢化の進ちょく具合が、従来型、高度成長期につくられたような住宅団地で特にそういう傾向が著しいんですけれども、そういったことに対するきめ細かな地域政策とか、ある種の市民協働といいますか、そういう分野での市民協働、市民の政策参加、そういったものを基本計画の重要項目の一つに据える予定でございます。

今、庁内で取組を進めておりますけれども、基本計画におきまして今回はこの4番の都市経営の部分というのが、今までの基本計画と比べて、今でも基本計画はどちらかというと、何とかの課題に何とかの整備をして対応してまいりますというタイプの計画だったんですけれども、そういったことが難しくなっているという現実もまたありまして、また、先程の地域課題の多様化、「まだら化」に対応していくために地域政策を進める、そのために地域とどういった連携を進めていくかといったような都市経営手法について、基本計画では重点に取り上げまして、書き込みを今行っている最中でございます。基本構想でもそういった要素をもう少し入れるべきではないかというご意見もあるかと思いますが、先程局長が申し上げました、基本計画の方でも少しその部分を重点として取り上げておりますので、そのことを今申し上げました。基本構想との兼ね合いで、もう少し上のこちらの方にも入れたらいいんじゃないかということも最終的にはあるかと思いますが、中間案ということで、今内部での作業はそういった基本構想と基本計画の役割分担といいますか、そういうことで今は作業を進めております。

大滝精一委員長

ありがとうございました。

よろしいですか。

西大立目祥子委員

はい。

大滝精一委員長

基本計画についてはまだいろいろ練っている段階ですし、それからどこまでを基本構想で書いて、どこまでを基本計画で書くかというそのボーダーのところが、実際そこは



結構難しい問題があって、スパッとうまく切れるかどうか分からないところもあると思うんですけども、ですからその辺のところはもうちょっと検討した上でいろいろご提案いただければいいかなと思っています。

さっき柳井委員のご意見のご紹介があったんですけども、これを見ている、多分これは私の考えなので私の考えが正しいというわけでもないと思いますけれども、例えば柳井委員が後ろの二つで指摘しているような、例えば国内のマーケットが縮小していくっていうことがあってという話ですよ。この中でどういう手を打つかというのは、もちろんこれは仙台だけじゃなくて、東北全体、日本全体にとって、ものすごく大事な課題だと思うんですけども、ではこの時に何をやるかという話については、私はどちらかというとなんかやっぱりこの中身については、基本計画の方で書いていただくということが大事かなと思っているんです。

それから、農商工連携の話なんかもこれ自体が重要なことは、もう待たないんですけども、しかし、では具体的に農商工連携のようなものをどうやって、例えば仙台なりにやっていくのかということについては、これはマターとしては基本計画のマターかなという感じがします。

それから、一番上に、特に学都との関係で、都市型産業とか知的クラスターの育成とかという話があって、これも大事だと思いますけれども、この辺りのところはボーダーに近いところで21世紀の中葉を見たときに、都市型産業とか知的クラスターみたいなものの具体的な姿を描いていくとかという話になってくると、やっぱりどちらかというとなんか基本計画の方にそういうものが入ってきた方がいいかなという感じはもっているんです。

ですので、特に柳井委員のご指摘の中の、真ん中の辺りのような部分については私も同感の部分が多いんですけども、いくつかの方については、どちらかというとなんか基本計画の方でもうちょっと具体的な姿を描いていく方が、多分いろんな意味で分かりやすくもあるし、全体としての計画の整合性とか分かりやすさも担保できるんじゃないのかなと考えています。

ただ、これは私の考えなので、皆さん方からもし柳井委員のご意見について、何かコメントあればしていただければと思いますし、それからこれだけではなくて、担保する基本構想と基本計画の切り分けの部分とか、何をどこまでどっちでやるのかという話は、具体的にもうちょっと詰めていく必要がかなりたくさんあるという感じは持っています。それを今日全部ここで判断しろと言われても非常に難しいことなので、その辺についてはもうちょっと詰めていったらいいかなと思います。

すみません小野田委員、もしご意見ありましたらいただきたいと思います。お願いします。

小野田泰明委員

何回かお休みさせていただいたもので、少しウォーミングアップに時間がかかってしまいました。

今、ほかの委員の方のご意見を一つずつ拝見していて、後大滝委員長のまとめを拝聴しながら、そのメモに自分の考えを少しだけ加えたものを、若干ご説明をさせていただきます。

い。

先程局長からお話があったように、非常にこの基本構想で踏み込んで、特に都市経営のところは協働の仕組みを取り入れて、市役所の自己改革を進めていくという、今までこのような総合計画はあんまり見たことないのですが、非常に踏み込んだ内容だと思って感心しておりました。

それで最初の１の「仙台の未来へ」のところは非常に良く書かれていると思います。やはり先生方からご指摘があったように、２番目の「仙台の未来を創る市民力」とこの中身をどう書くかということについて、この場所にもってきたということは非常に前進で、この場所でしっかりと声明を出すことについては皆さん異論はないと思うのですが、何をこうやって、先程西大立目委員がカテゴリーを説明しているとおっしゃいましたが、そうではない分け方もあるのではないかとお話を伺っていて思いました。今の分け方は「支え合う」「賑わいと魅力」「広がる市民力」という三つです。防犯、介護、子育て、それから芸術、文化、スポーツで、学生と企業と市民をそれぞれきちんと横断しますということだと思うのですが、まずやっぱり人を大切にするというプリンシパルに基づいて、この市民力を掲げますというような哲学がいいのかとも思いましたけれども、子供からお年寄りすべての人がきちんと自己決定できる環境でそれが公共財につながる。そのためにはやはり市民力というものを政策の中心に掲げる必要があるんではないかというところが、もし可能ならば書かれるといいというのが一番目。

二番目が生活の場を大切にすること、その市民力を使うのはどういうことかということ、市民力というものはコミュニティのかなめなので、やっぱりこの生活の場が豊かであるためには、一人一人が自分の住んでいる地域に対して愛情をもって活動し、地に足の着いたコミュニティというものがやっぱり大事だということが二番目。

三番目はそれと全然逆なのですが、さっき西大立目委員がおっしゃっていたように、地域の限定を超えた市民力というものもあるはずで、それについてもコメントが必要だと思います。それは、さっきおっしゃった地域の、地域の方が僕は大事だと思うのですが、それは（２）でしっかり言ってるから（３）で、それぞれの趣味とか興味とかそういうものを深めるようなコミュニティもそうだし、そうではなくて仙台を生活の基盤に持ちながら、他地域や世界に開いていくといった、要するに青森で仕事をしている人は関係ないという話ではなくて、若しくはアメリカに家族がいる人は関係ないということではなくて、ローカルでありながら非常にグローバルな概念だということを（３）でうたう。

四番目にこれ重複するからいらないかもしれませんが、カテゴリーの問題で学都の学生の問題とか企業とか、そういう話がもし必要であれば補足をするという分け方もあるのかなと思いました。それが一点目。

二点目は「３ 仙台の都市像」というところですが、これも非常によく書けていて、余り注文はないのですが、私は建築が専門分野なものですから、ソフトな話が過半で基盤となる環境、環境というのは自然環境とか循環型社会とかというサステナブル社会をどうつくるかということ是非常によく書かれているのですが、その総合的な都市基盤もどう考えるかということがほとんど無いと思います。先程ご指摘があったように、古

い建物とか地域資源というものが若干 出ておりますが、やっぱり21世紀は都市の時代というか、都市がそれぞれ競争する時代ということで、アイデンティティをきちんと持っていない都市はやっぱり通過されてしまうと思うので、ここは というものをつくっていただいて、私の職業からくる個人的な強い思いですけれども、都市仙台の魅力を創出する優れた地域環境が必要であり、それは前段で言ったような立場を超えてさまざまな人が交流する活動がより魅力を持って輝いて、そういうフローである活動がストックに変わっていく、そういう基盤として必須であるということを少しお考えいただけないかなということが、二点目。

三点目。これも先程来農業の話が出ていますが、「(3)『自然と調和し持続可能な潤いの都』」の3番目に「エネルギー効率の高い機能集約型の都市構造の構築を進め、便利で快適に暮らし、活動できるまち」と書いてあるのですが、それはいいのですが、集中した後残りはどうになってしまうのか。よくコンパクトシティで問題になるのですけれども、まとめて中心に住んで問題解決するのかということそうではなくて、周りにはいっぱい限界集落みたいなのところがあって、そこをきちんとしていかないと国土保全の問題が出てきて、もちろん景観も保持できませんし、そこを活用して豊かな生活の資源として使うためには、やはり人がある程度住んで手入れをしていかないといけません。そういう視点が、仙台市は非常に地域が広くて自然が豊かな地域がいっぱいあるので、埼玉とかそういうところであればいいのかもしれませんが、やはりそれは仙台市の計画としては必要なんだろうと思っています。そこにやはり農業とか林業とか、そういうものを書き込む余地はあるはずで、それを と位置づけてはどうかと思っていました。

番で豊かな周辺地域というのは、都市仙台のアイデンティティをつくる重要な要素であり、そういうところを保全し、21世紀に向けて活用するために、農林業などの一次産業と連携した試みや交流人口を活用した持続可能で豊かな地域を構築していくというものがあっても、別にずれてはいないのではないかと思います。

(4)の「東北を支え広く交流する活力の都」というのは、今まで先生方がおっしゃったようなものでいいと思います。創造型産業は少しあった方がいいと思いますが、それは先生方がご指摘されていると思っておりますので省きます。

4の「仙台の確かな都市経営」の「(1)自立的・創造的な都市経営に向けて」ということで、これはまだ異論はあるとは思いますが、僕自身はすごく踏み込んで書かれているので、これを何とかブラッシュアップしたいと思っていました。この各四つの流れは、一段目は自立的決定は大事ですという話をして、二段目に公的サービス概念をどう見直しますかということ、行政の主体的なサービスであった公的サービス概念を見直していきましようということ、そのためには三段目に協働のプロセスが必要で、それを仙台市が自己改革を進めながら決意をもってやりますということで、自立的決定の意味、公的サービスの概念の見直し、協働のプロセス、決意表明ときれいにはなっています。しかし、さっきからお話があるように、自立的決定って一体何のために必要なのか、要するにその前段でさまざまな市民力の話を経済的に取り上げているのに、何で自立的って必要なのかということがあるので、それはやはり として、そういう創造的かつ柔軟な運営がなぜ必要なのかという、なぜというかなんだすという宣言でいいと思いま

すので、宣言として、都市仙台を中心としながら世界さまざまな地位、知恵や能力を集め判断していき、それを住民の積極的な参画をもって果敢に決断していくダイナミズムがやはり行政には求められる、そのダイナミズムを獲得していくためには二段目につながります。二段目で行政の定義に移るのですが、公的サービスの定義の見直しだけではなくて、行政の定義の見直しと考えた方がいいと思っていまして、そのためには受動的な今までの行政をサービスする側、受ける側という関係を脱し、更に行政の仕事、ビジネスという仕分も柔軟に解釈していく。それを掛け渡すために市民力による公共サービス分野の開拓が必要不可欠です。そういうことが独断には陥らないように、しっかり合意を調達して施策の中に位置づけられていく。かつ、それがグローバル化に対応した、早い速度と創造的内容を具備していけないといけません。そのためには、透明でかつ協働するようなプロセスが、行政運営の内部に明確に組み込まれてなければいけません。これが三段目のプロセスですけれども、そこで協働であり、その主体となるのが今回定義した市民力ですと入れる。それが三段目になります。

四段目で、それを越えたプロセスへの、プロセスを使いながら難しい課題に挑戦し続けるということ、それをしっかりと蓄積してフィードバックしていくことの積み重ねが最終的には市民力の育成につながっていき、プロセスの中から市民力というものは生まれていくとしていけば、小松委員からご指摘のあった、育成の問題がどうなっているのかという非常に重要なテーマにも、ここで答えることができるのではないかと思います。

僕は考えたことはほとんどなくて、皆さん方のご意見をまとめたただけなのですが、そういうふうにブラッシュアップしていくと、この基本構想というのが非常に画期的なものになるのではないかと考えてお伺いしておりました。

大滝精一委員長

どうもありがとうございました。

ほとんど全部書き換えるような話に、近いような話になってきていただいていると思うのですが。

小野田泰明委員

いえ。「2 仙台の未来を創る市民力」と、4の「(1) 自立的・創造的な都市経営に向けて」だけは少し手を入れた方がいいと思いましたが、そのほかは「3 仙台の都市像」の「(1) 『未来を育み創造する学びの都』」のところで として創造的環境を入れたらどうかということと、3の同じく「(3) 『自然と調和し持続可能な潤いの都』」に、これも として周辺地域の対応で入れたらいいのではないかとということで、ぎりぎりのこのタイミングで、改善というか盛り込めると思いました。

大滝精一委員長

ありがとうございました。

これはもう、今小野田委員がおっしゃっている、言いたいことは私が繰り返すまでも

ないと思います。よく委員の方で把握していただいたと思います。

多分今回の大きな課題の一つは特に2の「仙台の未来を創る市民力」のところのこれは全体の構成とか、何かストラクチャーをもうちょっと考えた方がいいという話だと、これはほとんどの委員が指摘をしていただいたことなので、その辺については、今の小野田委員のご提案も含めてちょっとその構成とか、全体の書きぶりの修正ということですね。

それから、最後の4のところについても同じことだと思いますけれども、特に何のための自立的、あるいは自立的・創造的な都市経営なのかという話とか、それからこういうような改革を進めることによって、それが市民力の育成とどう結びついてくるのかというようなこと、特にその部分はもうちょっとしっかりとした記述があった方がいいと思うんです。そこを今、小野田先生の提案は、もうちょっとそれをうまく全体としてつなげることができれば、より簡潔で分かりやすいものになるというご提案だったと思うんです。恐らくその辺りのところがエッセンスだと思いますので、それは多分今日の全体の議論の中でも、大きな議論だったと思いますのでご検討をお願いしたいと思います。

山内企画調整局長

その辺は問題意識というか認識的にはほとんど共通の部分があるかと思いますので、それをどういう枠組み、構成の仕方でまとめ直すかということだと思いますので、その辺は委員長と相談しながら、個別にまた調整させていただきながらできるだけいい方向に修正していきたいと思います。

大滝精一委員長

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

今日は余り議論がなかったんですけど、2ページ目の3の「仙台の都市像」の「ひとが輝き続ける杜の都」というものを統合目標にしようという提案があるんですけども、これについてはいかがですか。

もしこれを統合目標にするということであれば、このことの持っている意味とか、これはやっぱりしっかりと市民に伝えていくということがかなり大事になってくると思うんですけど、この中身でよろしいかどうかについて、ちょっと議論などしてもいいんじゃないでしょうか。

山内企画調整局長

都市像のところについて、そういった統合目標を中心に、もう少しいろいろご議論いただければと思います。

やはり庁内的にも、この表現の一つ一つの言葉にこの四つの都市像がいろいろ拾っているというか、そういう趣旨だと思ってはおりますけれども、ただこの文体の言葉を聞いた場合に、本当に多くの市民が最上位、あるいは統合の目標と認識できるかどうかという部分は、やはり見解が分かれる部分もありますので、十分ご議論いただきたいと思います。

います。

大滝精一委員長

もちろんこういうのって、なかなか難しいので。一つどれが正しいというのがない話なので難しいんですけど。

小松洋吉委員

「ひとが」というのは、一人一人がという意味でしょうか。

(事務局同意)

小松洋吉委員

感想では暮らし続けたいというよりは、分かりやすいかなと思います。これは、僕はいいと思いますが。

大滝精一委員長

どうぞ。

梅内総合計画課長

先程小野田委員からお話ありました、市民力のところで哲学みたいな形にできたらいいのではと、ひとを大切にするとかそういったことと、その統合目標のところが連動するお話なのかなと伺っておりまして、確かにこの部分の敷衍した内容とかですね、そういった哲学みたいなところが基本的に市民力にもつながりますし、いろんなところでつながっていくんですけども、そういうようなところを少し書き出す必要があるのかなと思って伺っておりまして。そういうところについてもちょっとこれから検討してみたいと思っております。

大滝精一委員長

元々は「ひとが輝き 暮らし続けたい 杜の都」というのがフレーズだったんですよね。

どうぞ、間庭委員お願いします。

間庭洋委員

二番目で市民力が出てきてですね、いろいろ論じられて、その次に3の都市像が出てきて、要するにそういう市民力が輝くような形で、こういう四つの都市像を目指していくというつながりは、流れ的にはいいんじゃないかなと思います。そういった意味で、先にひとが出てくる、次に都市像が出てくるというのはいい流れだと思います。「ひとが輝き続ける杜の都」というのは、ここでつなぎ役になっているんじゃないかなという気がしますね。

大滝精一委員長

どうでしょうか。これはなかなか、難しいんだけど。

西大立目祥子委員

私は何か「ひとが輝き」の後に「暮らし続けたい」というのが入った方がいいと思います。暮らし続けたい、輝き続けるじゃなくて、輝いて暮らし続けたいということ。

間庭洋委員

西大立目委員と同じように、語呂が悪くなければその方がいいですね、私も。

西大立目祥子委員

輝き続けるっていうのも、なかなか大変。

間庭洋委員

大変だね。

小野田泰明委員

自分の問題ととらえていませんでした。かなり大変です。常にかんばっていなければいけない。

西大立目祥子委員

そういう感じがあって、あなた輝いていますかっていつも言われてしまいます。持続可能だとか、将来にわたってこのまちを次に暮らす人に手渡していくという感じで、私は都市のことっていつも思うんですけども、そう考えるとやはり、このまちに暮らしたいなあと思われるような仙台にしていきたいというか、それが一番大事なことのようない感じがするんですけども。どちらかという、「輝く」よりは「暮らし続けたい」の方がいいんじゃないかと、そんな感じをもっています。

小松洋吉委員

僕は「ひとが輝き暮らし続けたい」というのは、ちょっとくどいと思うんです。最初から何かちょっと、僕は何かくどいような気がした。

もし暮らしを残すならば、「ひと」をとるか。「ひとが輝き暮らし続けたい杜の都」といったら何か重くないですか。

西大立目祥子委員

確かに長いんですが、でも「ひと」をとるわけにもいかないという感じがありますね。

大滝精一委員長

じゃあ、「ひとが輝き」をとる。

#### 間庭洋委員

話し言葉と読み言葉で違うと思うんです。読むんだったら、この「暮らし続けたい」が入ってもおかしくないんじゃないかと思うんです。これはキャッチフレーズの的にテレビとかラジオで、言葉として語るんだったらちょっと長ったらしいんですけれども、報告書に載せる字だったらこの右側に書いてある「暮らし続けたい」というのが入っても読む字としては、長ったらしくないと思うんです。

#### 山内企画調整局長

ちょっと文章の関係としては、鍵括弧の前に「仙台が、どのような時代環境にあっても豊かな暮らしを支える持続可能な都市」という表現で、これはその「何とかな都市＝この鍵括弧」だという位置づけのものでありたいという文章構成にしているんです。ですから今の話をもし入れるのであれば、「暮らし続けたい」というものを、何とかな都市の前の表現を変えるか、あるいは「ひとが輝き暮らし続ける杜の都」でありたいというままで使うか、どちらかかなという感じがします。

#### 間庭洋委員

今回私の方で、本当に一時的なことかもしれませんが、セントラル自動車とか東京エレクトロンの会社の人たちとの接触を随分ここ何年間かやってきて感じたことなのですが、外からいわばセントラルさんは特に本社移転ですから、会社も社員の方も人生がまるっきり変わるような大変な、昔で言えばモーゼの十戒みたいな感じで、相模原から飛び込んでくる方々の印象をいろいろ聞くと、仙台のまちの全体的な魅力は、ここで四つあり言えばこういうようなことなんですけれども、やっぱり「暮らし」というものが非常に鮮明に言われているんです。企業活動というのは当然なんですけれども、インフラももちろん当然なんですけれども。そういうものは全国様々いっぱいあるけど、ここの四つの都市像に代表されるような事柄は、そんなにあちこちにもないと。都市の魅力というか、社員が安心して引っ越してくる、家族も含めて、というのはやっぱり仙台だという全体的な評価、代表的には四つの都市像みたいなものなんですけれども、そういったその「暮らし」というものが非常に評価されている部分、「暮らし」にはもちろん「学ぶ」も「働く」も全部入っているんですけれども、そういったものというのは結構重要だってここ何年間かつくづく思いましたので、「暮らし続けたい」あるいは「住み続けたい」とそういう、住むより暮らしの方が幅広いんですけれども、非常に重要な要素なんだということを改めて認識したこともありまして、もし文字で表すのであれば、是非何らかの形で組み込んでいただいて、山内局長がさっきおっしゃったように前後の表現でもってカバーしていただければ、くどい表現に重ねての表現にならないですむかなと思います。

#### 大滝精一委員長



もし、ほかの委員の皆さんから、何かご意見ご提案ありましたら、お願いしたいと思います。

今ここで、どっちって決めるわけにもいかないと思うので、そういう案もありましたということで。暮らし続けたいという文言、残した方がいいというそういうご意見も、少なからず、この中にもあったということで、いいかと思えますけど。

#### 小野田泰明委員

もう少しじっくり議論した方がいいのではないのでしょうか。キャッチフレーズだから構造が大事。コピーライターではないから何か3分ぐらいで考えるのは少し難しい。

ただ、西大立目委員に言われてはと思ったのですが、輝き続けるというのはちょっと仙台にはやはり似つかわしくないというか。東京とかですと常に競争し続けて輝き続けるということなのでしょうけれどもと思いますが。競争はしていますけど、ちょっと何か人間的にそれが成就できる場所というのは仙台なのではないかと思っていて、時間を自分で管理できるその自由さが、東京のコラボレーターとかライバルを見ていて、何か仙台に住むことができてよかったと思います。先生も同じ感じなんだと思いますが。本当に僕たちはやはり時間をコントロールできている、それは仙台に住んでいることが大きくて、輝き続けられないといけないという強制力が働くと余裕がなくなるから、「輝き」と「続ける」は何か分けたほうがいいかなと、少し思いました。

#### 大滝精一委員長

今の小野田委員が言ったような印象はちょっと私も、私も前に東京の大学にいてからこっちに来たので、東京と仙台は本当に2時間足らずで結んではいるんですけども、暮らしてみるとだいぶ違うんです。だから、そういうところのもっている仙台全体としての魅力とか、ゆとりとか、コントロールできるとか、それは先程からあるような水と緑のネットワークみたいなものが、本当にすぐ近くに豊富に存在しているとかって、それはすごく、これからの21世紀半ばくらいの都市像としてはやっぱり、そういうものを何か感じ取られるような、キャッチフレーズがいいなというのは少しあります。

#### 間庭洋委員

これは続けたいという意味合いには、ややアンチテーゼ的なところがあるんですが、企業が自分の都合の良いときだけ来て、そこからいわば悪い言い方をすると収奪するような形で、おいしくないマーケットになったらもういなくなるということではなくて、地元で営々としてそこで商売を続けざるを得ない人たちが、やっぱり地元のお客様とか取引先とかそういったものを大事にし続けて、そこで生きていくと、暮らし続けていくと、こういう時代にだんだん変わっていくと思うんです。そういう意味では、持続的な意味というのは非常に、生活者としても商売をやる方としても、これから非常に大事な概念になってくると思うんです。

残念ながら企業の判断は、地域よりも自分の会社ですから、どうしてもおいしくないマーケット状況になったらどんどん勝手にいなくなってしまうということが実際にある

わけです。そういうまちになりたいのかと、どんどんそういうのはオッケーだよというまちを目指したいのかといたら、今は地方都市は違うと思うんです。そういう意味ではやっぱり「何々し続ける」ということは、非常に重要な意味合いを持っているのではないかというふうに思います。ですから、これは暮らす人も、やむを得ず移るということもあり得るんですけれども、特に事業者はそういうことが今非常に大きな価値観、我々地元からしても経済人としても、マーケットの消費者、生活者としても、そういうものの見方をしていかなきゃいけないんじゃないかなと思うんです。やっぱり持続性、継続性というのを何らかの形でキャッチコピー、若しくは前後の表現に十分組み込んでほしいというふうには思います。

#### 大滝精一委員長

今の間庭委員がおっしゃっていたことは、持続可能な都市、サステイナブルな都市という表現の中に組み込まれるべきことなのかもしれないんですけど、持続可能という言葉自体がいろんな意味合いとかいろんな強調点によって、言葉の意味とか伝えたい中身が変わってくることがあるので、本来は少しそういうことをきちんと丁寧に説明していくということが、もうちょっとあってもいいのかもしれない。多くの人たちは、持続可能という言葉を知ると環境の問題とか、あるいは最近の言い方だと、低炭素社会の実現というようなところに、引っ張ってくると思うんですけれども、何かもう少し持続可能っていう意味自体が多様な意味をもっているし、それが仙台のまちづくりとか、都市のあり方というものにかなり重要な意味をもっているということも、これはもうほとんどコンセプトとか、概念あるいは哲学のようなものに近いかもしれませんが、でもそのところが非常に大事なかなという感じはするんです。

仙台の仙台らしさっていうところは、言葉で言ってしまうと持続可能な都市とかということになるんだけど、それって何というような話は本当はきちんと議論の中にあってもいいかもしれないです。

基本構想とか基本計画の中で、それをどこまできちんと書き分けることができるかどうかというのは、いろんな問題も含まれていると思うんですけれども。

今のような間庭委員のお話というのも、あっていいかなという感じもします。もうちょっと持続可能という言葉の意味を膨らませておくということも、本当は都市のあり方として、あるいはそこで暮らす人間というのは、どのようなことの中で暮らしを行っていくのか、そういうこととかかわりをもっているのかなと、ちょっとしました。

どうぞ。

#### 庭野賀津子委員

私も今大滝委員長がおっしゃったとおりと考えていましたけれども、やっぱり持続可能とかサステイナブルというのは、今はやり言葉のような形でいろんなところで使われているわけなんですけれども、やっぱりこの基本構想の中で持続可能な都市という言葉を用いる場合に、やっぱりその意味を明確にしておかないと、本当は何を言いたいのかがよく分からないことと、後は一般市民の考え、目線から考えた場合に、400年続いたこの仙

台というこの一つの大きな都市は、今後も当然続いていくものだと思っているはずで、思っている方がほとんどだと思うんです。なので、ここであえて持続可能な都市とあげるとは、もしかしたら持続しない何らのリスクがあるのかというふうに逆に受け止められかねないと思うんです。何か努力して続けていかなければ、例えば財政破綻が起きているような夕張のような例もありますけれども、そういう何かしらのリスクがあるからこそ、ここであえてあげて、努力をして持続可能にしようとしているのかという受け止め方ももしかしたらあるかもしれないので、そのところをなぜここであえて持続可能な都市と仙台に対してこう出さなくてはいけないのかを、明確にしていきたいなというのがあってと思います。

持続可能という言葉があちこちで出てくことと関連して、「暮らし続けたい」の「続ける」というのも少しはリンクするのかもしれないんですけども、私はこの「暮らし続けたい」という言葉、これもちょっと引っかかるところがありまして、よく例えば、転勤族の方で全国を歩いて退職後、最終的に仙台が一番良かった、だから仙台に定住したいということをおっしゃる方がたくさんいらっしゃって、仙台市民として誇りに思うわけですが、そのように自由に選択できる方、いろんなところから選んで最終的にここに住みたいというふうを選んでいて、あるいは暮らし続けるという選択肢を持っている方であれば、この暮らし続けたい都市を目指していくことはいいわけですが、ここでいう「暮らし続けたい」の主語がどの範囲なのか。例えば、元々仙台にいて自由に出入れない方もいるわけで、土地や家の関係でそういう選択肢がなくもうずっと仙台にいてはいけないという元々の市民もいるわけで、そういった場合にあってここで暮らし続けたいと出すのもちょっとそれもどうかと。それが当てはまる市民と、当てはまらない市民があるのかなと気がするんです。ちょっと平易な表現になってしまいますが、例えば「暮らしやすい」というような言葉であれば、どなたにも当てはまるんだと思うんですけども、なので「暮らし続けたい」とか、そういった「持続」という言葉は、あちこちに散りばめるのはそれはそれで意味のあることだと思っておりますけれども。ここで大きなテーマとして一つあげるには、ちょっと暮らし続けたいというのは、すべての方には当てはまらないような気がするので、ちょっとどうかと思っておりました。

以上です。

大滝精一委員長

ありがとうございました。

なかなか表現が難しい。

いずれにせよこれは、ここですぐに決着がつくというタイプの問題ではないので、少し今いただいたご意見をいろいろ参考にさせていただきながら、また、中間案として出して審議会の皆さんからもいろいろ反応をいただいた方がいいんじゃないかなと思います。

後、特に何かこの辺はどうですかというようなことで、事務局の側から委員の皆さんに意見を諮りたいようなことがあれば、むしろ積極的にご指摘いただいた方がいいかな

と思いますが、どうですか。

梅内総合計画課長

たくさんご意見をいただきましたので、これから中間案の確定に向けて、内部で検討したいと思っております。

後、今委員長からお話ありましたが、まず中間案を確定させてパブリックコメントですとか、シンポジウムとか、市民説明会等を行いますので、そこでのご意見を踏まえて、また後時間の経過と共に委員の皆さんのお考えもあると思いますので、年末に向けて最終案を策定していきたいと思っておりますので、その間こちらとしても、ご指摘を踏まえながら内部での検討を進めたいと思っております。

ありがとうございます。

大滝精一委員長

それでは、ちょっと時間早めなんですけれども、この中間案としての基本構想につきましては、ほぼ皆様方からご意見いただいたかと議長として判断いたしますので、そろそろ終わりにしたいと思います。

今日は活発な議論をいただきまして、本当にありがとうございました。

本日交わされた意見を踏まえて事務局で更に修正をするという形で、今お話がありましたように先に進めていくということにしたいと思います。

それでは、今後の進め方等につきまして、改めて事務局の方からご説明いただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

梅内総合計画課長

今後の進め方でございますけれども、8月27日に第6回の審議会を予定しております。そこで審議会といたしましてこの基本構想と基本計画を中間案を確定し、先程申し上げましたように、議会への説明ですとか、パブリックコメント等を通じまして市民のご意見を広く募っていききたいと考えてございます。その後、それを反映して最終案の確定ということで、進めてまいります予定でございます。

中間案の確定前に、予定では起草委員会をもう一度開催することをしておりましてけれども、この間七夕もございまして、お盆もございまして、二つの部会につきましては、基本計画の関係で27日のまでの間で開催いたします。18日、19日を予定しておりますけれども、そういった日程の都合ということもございまして、ただ今、たくさんいただいたご意見をもとに、事務局で中間案を修正いたしまして、起草委員の皆様にもメール等でお送りさせていただくなどして、ご確認をいただければと思っております。それを踏まえまして、最終的には大滝委員長とのご相談をさせていただき、中間案の確定とさせていただきますと考えております。

そのような進め方についてご了解いただければと思います。

大滝精一委員長

ただ今の事務局からのご提案につきまして、皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

( はいの声あり )

大滝精一委員長

ありがとうございます。

では、そのようにさせていただきたいと思います。

なお、今お話がありましたように、27日に次回の審議会を開催するという事なんでしょうけれども、私ちょっと海外出張の予定が入ってまして、出席できません。その関係で起草委員会としての中間案の説明は、事務局に当日お願いするということにさせていただきたいと思います。申しわけありませんが、ご出席される委員の皆様にも必要があれば、補足説明等お願いしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

## (2) その他

大滝精一委員長

続いてその他ですけれども、皆様から何か特にありますでしょうか。

特によろしいでしょうか。

それでは、議事につきましては以上で終了いたしたいと思います。

## 3 閉会

大滝精一委員長

最後に事務局から、何か連絡があればお願いいたします。

梅内総合計画課長

特にございません。

大滝精一委員長

よろしいですか。

それでは以上を持ちまして、本日の起草委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。